

【ビニールハウスの居場所】

marugo-to(まるごと)

6/40OPEN



男性シニア
良ちゃん
憲ちゃん
保さん
姦ちゃん

みんなの居場所

go to by the way

巻地区社協
楽しいgo-to
と折返し大
勢が参加
できる場所

全員集合
松野屋
You

1区会
会長大塩昭太郎
室輪重男
高柳由男

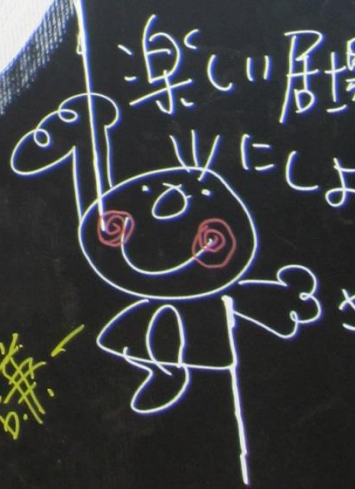
楽しい居場所
にしよ

来てね
西条区役所

南区社協
みくら いすし よ:やま
美人?三姉妹

車輪
満江

吉田謙一



活動01

「ゴーヤのグリーンカーテン」を作る



オープンして最初の活動は「ゴーヤのグリーンカーテンを作るための、ゴーヤの苗植えを行う。

苗を植えるために土を耕し、藁を敷き、ネットを貼り、8株の苗を植える。

このゴーヤの成長とともに、新しい居場所のカタチとして「marugo-toも発展をとげていく」そんな願いが込められた活動の第一歩！



活動02

「米茄子」を植える

2つ目の活動は培養土が入ったままの袋をそのまま使い、米茄子を3株袋植え。

用意した米茄子はたくさんあったので、袋植えできなかったものは、参加者に持ち帰ってもらい、自宅での家庭菜園に活用してもらうことに。



「米茄子」サイズが大きいのが特徴で、一般的ななすが120～150g程度なのに対し、米なすは300～400gくらいあります。

活動03

「お茶を飲みながら自己紹介」



ブルーシートをテント代わりにして簡易の日よけとお茶飲みのスペースを設置。活動の合間の休憩場所として、お茶を飲みながら談笑できる場所として過ごせる場所。オープン初日ということもあり、参加者同士で自己紹介をし、お互いを知ることで、仲が深まった様子。

※赤枠の写真をそんな一場面を切り取った今日の笑顔の1枚！



活動04

「缶バッチの袋詰め作業」

缶バッチの袋詰め作業にも挑戦。これは、この居場所での多様な過ごし方の一つであるとともに、自主財源の確保も兼ねた（狙いとして）活動。



編集後記

marugo-to(まるごと)が目指す居場所のカタチは、もしかしたら“百姓”型の居場所なのかもしれない。百姓という言葉は本来「百の仕事ができる」という意味があるそうだ。この日は4つの活動を行っていたが、今後の構想としては木工作業やピザ釜作りを予定している。また、この日の最後には参加者から「お茶を飲むスペースに貼っているテントが大きいといいよね」「じゃあ、俺が今度来る時までいい道具ないか見てくるわ」など、新しい活動が自主的に生まれるような場面も見受けられた。ここで過ごす人が「おもしろい」「楽しい」「やってみたい」と思ったことを実現できる場所になっていけば、「百のやりたいことが実現できる」そんな“百姓”型の居場所という言葉がピッタリの居場所になっていこう。

